

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900339
法人名	有限会社 アシスト
事業所名	グループホーム ひだまりの家
所在地	千葉県船橋市習志野台2-62-34
自己評価作成日	令和3年10月15日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15
訪問調査日	令和 4 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①コロナ過でも楽しめるイベントを企画し(個別支援を含む)、職員も利用者も笑顔がある共同生活ができるよう努めています。ご当地グルメで【ほうとう】を作って食べたり、かまどを作成して手作りピザやナンを作ったり、BBQをしたり、お弁当を作って外でお昼ご飯にしたりなど外出が減ってしまっている状況の中でも、外で楽しむイベントを実施しています。②福祉科の高校を卒業した新卒が3年連続で入社されました。介護の次世代を育てられる仕組み作りをし、若い世代の介護士を思いやりある介護者として教育し、技術を学び、介護の仕事に感動ができる職員をつかっていきたいです。介護に魅力を感じない職場にはしたくありません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設のよい点①施設の理念「利用者の気持ちに寄り添う」と決め、安心に寄り添うのでは無くどうしたら何が出来き、喜んで頂けるかを職員全員が洞察力を研ぎすませて支援に当たっている。結果アクシデントには全て家族に報告して信頼関係が構築されている。看取りに至った例では結婚式参列し帰宅して仏前で手を合わせる等家族からも「こんなことまで出来るんだ」と驚きと共に感謝のコメントが、職員の仕事に対する誇りと自信に繋がっている。又最後の晩餐として「黒ビール」で乾杯をする等その人の喜びに繋げる細やかな配慮のエピソードには枚挙にいとまが無い。②行政からの要請で「介護の未来案内人」をテーマに高校で講演を行ない触発された卒業生が3年連続で入職し介護の仕事の面白さ、やり甲斐を身につけ元気に働いている。地域に根付いた施設としての評価は高い。③施設方針として人が足りないの出来ないは無しと決めて居る。職員からの要望には真摯に耳を傾けどうしたら人が増やせるかを考え最低人数を4人としているので利用者に寄り添う時間が多く、会話や安全な支援に繋げ、「ひだまりの家」で良かった又此処に入りたくて待機者が何時もいる程施設の評価は高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の気持ちを大切にすべく、コミュニケーションをとり、気持ち(ニーズ)に寄り添うことで個別支援のヒントや、関わり方のヒントを	理念「利用者の気持ちに寄り添う」は何かを職員は何時も考え支援に当たっている。安全に寄り添うのでは無く、笑顔に繋がる事を優先させ失敗を恐れずトライしている。家族には包み隠さず報告され、結果信頼と安心に繋げている。理念実践ののスローガンとして「利用者全員と意識して笑顔で関われる時間を持つ」と唱和して理念実践の意識は高い。	スローガンを半年ないし一年で新しい言葉を職員と相談し決めて実行する事で理念実践を具現化する事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流の機会をつくるために、塵取りをもって散歩に行きゴミ拾いをしたり、地域の商店街に買い物に行ったりしている。	行政から「介護の未来案内人」をテーマに講演を依頼され写真を使って高校で行なった。卒業生が介護の仕事に興味を持ち入職した。3年連続で一人・一人・三人と実績が出来、生き生きと働く姿が後輩に良い影響を与えている。管理者は自分達がしている仕事内容を理解して貰うだけで働く意欲と楽しさが分って貰えると自信を持っていて地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症の人を抱えている困りごとを聴く機会として、認知症カフェをおこなったり、まちかど案内所として相談の窓口を設置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議をおこない、入居者情報を会議の場で報告をして、委員会のメンバーから意見を聞きより良いサービスの向上を目指している。	運営推進会議は地域包括・民生委員・地区社協・自治会長が参加して年6回開催されている。ホームから入居者状況・行事・研修・台風災害等を報告している。地域の情報とやって欲しい事、取り組みへのお褒めの言葉や守られていると感じ協力して取り組んでいる。また、MCIIについて 講座を行って認知症への理解と相談を受ける事も伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	正しく運営をするために、市の関係者と常に連携をはかりながら指導をいただき運営をしている。	市の担当者とは加算取得等や何かある度に相談しメールでの感染症・災害時対応の指導や研修案内に参加し協力して取り組んでいる。グループホーム連絡会では、制度変更時の勉強会や研修に参加し、認知症の「ラン伴」に参加して連携と仲間作りが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害に関して、研修をおこない身体拘束をしないケアを考えながら、利用者の安全を守るために様々な工夫をしている。	年2回身体拘束の研修は「制止する場面等」職員が役割を演じて動画を撮影し、楽しく学べる場を作って話し合っている。また、権利擁護の倫理研修を実施して人権を守ることの大切さも学んで、身体拘束をしないケアを心がけている。言葉の拘束はNGワードを言い続け、ミーティング時に「4つ目のスイーツロク」について話し合い、職員の都合を優先しない事を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止を考えるために研修をおこない、不適切なケアから防いでいく取り組みをおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	倫理及び法令遵守の研修をおこない、介護保険制度や理念などを基本的な考え方を学び、基本的人権を尊重してケアをおこなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に施設を見学していただき、その際に不安や疑問などを聞き取りしている。また、ご本人の生活の様子をお伺いして、相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なにか希望や悩みなどがあれば、相談窓口となりお話を伺い、意見を反映または改善ができるように努めている。	家族の来訪時には利用者の状況を話し合い要望を聞き、家族の協力もお願いしている。イベントの日が分からない要望には請求書に同封して知らせ、担当職員より利用者の様子を「一筆箋」として報告し、家族会でも意見・要望も聞いている。利用者の日常の様子から意向を汲み取って連絡ノートやミーティング時話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務での相談や、利用者に関する相談など意見を聞くために面談の機会を設けています。また、相談内容を改善するために努めています。	今年度職員の1F・2F職員の総入れ替えを行ない新しい環境の下、どうしたら利用者の情報を得られるかを考える機会を作った。職員は苦労しながら考える事が身に付きだし、得意・やりたい事を話し合いの中で調整し持ち場の決定などに生かした。個人の理由や要望を聞き取り年休取得を積極的に取る事で意欲に繋げている。	一時的な混乱があったものの職員が自分で考え利用者に良いと思うことを積極的に意見交換が行えるような関係が出来つつある。真反対の意見など様々な局面があるが理念の「利用者の気持ちに寄り添う」実践の為にトライアンドエラーには積極的に取り入れる姿勢は評価したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人のスキルアップを目指し、介護福祉士の受験対策講座や初任者研修を受けるために支援しています。労働時間や労働環境は、個別に相談を受けながら調整を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や実践者研修に、リーダークラスの職員は順番に受講しています。またより高度な実践リーダー研修も習得しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、空室情報や介護保険情報などの共有しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何に困っているのか、相談に乗れる時間を確保して、本人の希望を聞くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から電話での相談を受けた際に、実際に見学に来ていただき、相談や不満や不安などについてお話を伺っております。また、施設での生活のご様子を毎月お伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体機能の維持や口腔衛生の状態など日々観察して、ご家族と話し合いながら、必要なサービスがあれば検討し、ご家族様のご要望にこたえられるよう、また本人のADLが維持ができるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族と面会ができるように、コロナ禍ではありますが可能な限りで、本人と会えるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、一筆箋を書きご家族にここでの生活のご様子を報告しています。また、密に連絡を取り合い、利用者に必要な物品や支援などにご協力をしていただき、QOLの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅や近所に買い物に行ったり、ご友人の面会など気軽にできるように努めております。また、趣味でやっていたことなどを施設の中でも続けていけるように支援しています。	コロナ禍の今、感染させない決意の下、職員の電車通勤を止め自動車での送迎に切り替えた。その事は職員・利用者を守る事と職員も認識し管理者の努力を無駄にしないとの気持ちが共有され行動にも現れている。又来訪者は二人と30分以内としながらも積極的に来訪を促し家族との絆の継続に配慮している。	緊急時に取り入れた仕組みとはいえ、管理者の負担が大きい事を鑑み、職員の協力を得てコロナ禍が収束する迄継続される事を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話できるように席の配置工夫や一階と二階の交流の機会を設けて環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談や悩み事がある時は、いつでも支援できるように体制を整えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、今のニーズを聞き取り、介護計画書を作成するときにも、ご本人のニーズを確認してご意向としてカンファレンスで意見交換をし反映させたプランを考慮するよう努めています。	初回のアセスメント時に家族から生活歴や何処で暮らしていたか等を聞いてそこでの話題を支援に反映している。入所後は生活の中で「ここでの生活は・食事は・何が食べたい等」質問形式で聞き、関わりの中で何気ない言葉や様子を記録して意向の把握に努めている。また、家族からも趣味や好き嫌い等を聞いて食事やレクに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談前にご家族や担当しているケアマネジャーから意見を伺い、事前に調べた情報をもとにご本人と面談を行っています。面談時には、ご本人の好きなことや、苦手なこと、これからのやりたいことなど把握に努めます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子から健康管理、イベントや楽しみなどの活動をおこないながら、心身ともに健康で充実した生活ができるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成するとき、利用者の新たな一面を発見するために、他の職員に関わりや情報を共有するためにKJ法をおこない、カンファレンスをおこなうようにしています。	利用者・家族の要望を聞き、カンファレンスで話し合いケアプランを作成している。モニタリングを行って目標に対する成果を職員に聞き、ケアマネジャーは肌で感じて評価し、カンファレンスでは課題を話し合っで見直し、変化時には医師の意見を参考にして見直しが行われている。ケアプランは具体的に分かり易く記述され、家族と楽しい時間を持つために家族の協力をプランに盛り込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をケア記録アプリで管理し、情報はいつでも閲覧することができます。また、外からも情報を共有することができます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援を大切にして、個々で外出したい場所や、個々の趣味に関してのレクをおこなったりして、一人ひとりのレベルにあった支援と、嬉しい支援を目指して実行しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ禍で認知症カフェがおこなえてませんが、カフェが再開したらまたお手伝いをする予定です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診診療は2回/月でおこなっており、全利用者が受診されています。ご家族のご希望があれば別の病院にも診察されます。主治医は24時間連絡体制があり、緊急時には対応して下さり、合わせてご家族にも連絡しています。	入所時に医療支援体制を説明し、全利用者が訪問医に変更して月2回の往診と週2回の看護師による健康管理が行われ、24時間オンコールとなっている。体調変化時には看護師・医師に連絡をして薬を処方し、骨折等は診療情報提供書と看護サマリーを提供して受診が行われている。急変時には夜間でも往診があり、指示により救急車対応も行われている。家族には受診結果をメールで確実に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/週での出勤で健康管理や排便コントロール、採血、皮膚の観察や処置、服薬管理、医療連携をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院された時には、病院のソーシャルワーカーと連携を図り、退院時の計画や対応をするとともに、ご家族とも連携し、退院に困らないようにしています。また、病院でおこなわれるカンファレンスにも可能な限り参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応や指針について十分な説明をおこなっています。また看取りについても合わせて十分な説明をおこない、ターミナルの時にはご家族と主治医とでムンテラをおこない同意を得て、看取り介護を実施しています。	左記の経緯を踏まえて看取りが行なわれている。一例では理念の「利用者の気持ちに寄り添う」とは何かを職員の洞察力から、結婚式に参列し、帰宅して仏前に手を合わせた等家族も驚く程の支援が行なわれ「ひだまりの家」で良かったとの感謝のコメントを頂いた。又職員と一緒に最後の晩餐として「黒ビール」で乾杯をした事を報告をして、感謝コメントから職員の喜びに繋がる支援が行なわれている。	最後まで「利用者の気持ちに寄り添う」思想が貫かれ家族が気付かない様な事まで支援に活かされ、ひだまりの家で良かったとの評価やひだまりの家に入所したいと待機者が居る程評価が高い。この成果の継続を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し、緊急時の対応を研修しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した訓練を2回/念でおこなっています。また防災委員会を設置し、備蓄や必要物品などを揃えて災害時に備えています。	年2回想定を変え「通報・連絡・初期消火・避難誘導」の訓練を実施し、消防からは外への避難が早かったと好評であった。防災訓練では炊き出し・仮設トイレ・ペットボトルの蛇口使用等と防災講座が行われている。台風1号時の教訓から19号時には1階への浸水を想定し食材を2階へ移動・テントの撤去・職員は泊まり込み待機をしている。また、地域の避難訓練に職員が参加して連携している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーを守るために、研修をおこなっています。不適切な言葉かけを再認識するために不適切ケアの研修もおこなっています。	職業倫理について「人として尊厳を大切にす・利用者本位・自己決定できる等」の研修を行ない利用者の人格を尊重している。ケアを行う時には正面から目を見て了解を得て行う事を徹底している。懲りずにゆっくりケアをする事を心掛け、何気ない会話を大切にして個別支援を行い、不適切な言葉かけには注意をしている。居室はノックと挨拶、浴室やトイレの扉を閉めプライバシーに配慮している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を普段のコミュニケーションの中からヒントを得て、外出支援や個別支援を実施しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごす時間や、会話する時間、なるべくご本人のペースで過ごしていただけるように支援しています。そのために必要な居室内やフロアーの環境を整えております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の柄や色などでご本人の好みを把握して、その人らしさを理解できるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は色や盛り付け方に配慮して、おいしく召し上がれるように工夫しています。また、イベント時にはイベント食を提供したり、嗜好品を提供したりして、食事の楽しさを提供しています。	利用者は「調理・下膳・食器洗い等」出来る事を役割として行い、昼食は職員の手作りの物を提供している。季節毎にお節・ちらし寿司・寿司パーティー・バーベキュー等の行事食を提供し、毎月の「ルーの日」はカレーやシチューと一緒に作っている。外食は喫茶店でのコーヒーや認知症カフェに行き、家族と食も行なわれて食事を楽しむ工夫をしている。訪問歯科医や衛生士による口腔ケアを行って口から食べれるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日観察をして、栄養状態や脱水にならないようにケアをしています。食事が取れていないときには主治医に相談してエンシユアなどの栄養補助をおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3回/日の口腔ケアを行い、定期的に訪問歯科に受診して、口腔内の管理を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の時間、タイミングを排泄確認表を参考にしながら、ご本人にあったサイクルを検討しています。また、排便コントロールに食物繊維をとったり、腹部を温めたり、運動をしたりなどし、自然排便を心がけています。	なるべく布パンで日常生活が出来る様に声掛けをしてトイレに誘導し、トイレで排泄をする意識を持ってもらう事を大事にしている。利用者の排泄のパターンを教えてもらい、自分で行く人は見守り、云えない人には時間で誘導し、「ノーパットデイ」を設けてパットを汚さないようにトイレに誘導している。なるべく薬を頼らないように立位の運動・青汁や水分を摂り・ホットパックで腸の活動を助け、便秘時には下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事や運動などで便秘を予防するとともに、水分の状態や日々の便の形状を把握して、医療と相談しながらケアにあたっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴ただ体を清潔にするためのものではなく、一対一のコミュニケーションの場であり、ご本人がリラックスしている気持ちがいい時間なので、会話を楽しみながらの入浴援助をおこなっている。必要時にはご本人の希望に沿って入浴をおこなっています。	週2～3回を原則に体調や気分に応じて入浴を支援し、水虫や尻が赤くなっている時、尿失敗等は毎日入浴をして清潔保持に努めている。拒否する人には人を替え「薬を塗りましょう・体重を量りましょう」と声掛けの工夫をしている。更衣場の温度管理や転倒に注意し、皮膚の点検をして薬の塗布が行なわれている。利用者に合わせて同性介助・2人介助を行い、季節にはバラ・ゆず湯・菖蒲湯を楽しみ、入浴の時間は会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるように、眠れない方への支援方法を考えた研修を行ったり、ご本人の気持ちに寄り添ったケアをおこない入眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報はフローアと共有できるようにして、薬の変更点や作用と副作用がわかるように一覧にして作成しています。また服薬チェック表を活用して服薬事故がおきないように気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもっていただき、ご本人のやる気の支援と、お手伝いやレクなどに参加していただき、楽しく生活ができるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しむための外出支援や、魏棒の場所への外出支援をおこなっています。家族と一緒に外出ができるように支援し、実際に看取り時期の利用者に家にご家族と行っていただく支援をおこないました。	天気の良い日には近くの公園への散歩、中庭でのお茶を飲み、園庭ではボランティアと一緒に種まきや収穫をして楽しみ季節を感じている。外出企画を毎月実施し、花の美術館・バラ園・コスモス鑑賞や家族と一緒にスカイツリー見学等に出かけている。今年の個別支援として利用者の希望を叶えて九十九里へ1泊旅行に出かけている。ミキサー食の人が常食を食べ、ホーム内では見られない本人らしさが出て感動し、職員のモチベーションアップとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物支援に行ったときに実際に利用者にお会計をしていただき、買ったものを袋に詰める作業をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINEのテレビ電話機能で実際に会話をしていたり、ご友人から届いたお手紙にお返事を書くなどの支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な状態と快適な状態を維持して、利用者が安心して過ごせるように環境を整えています。また季節の飾り付けをしたり作品を飾ったりして、目で見て楽しめる環境を作っています。	リビングは光が差し込んで明るく清潔感があり、温度・湿度管理や床暖房を入れて快適に過ごせる空間となっている。毎月のカレンダーとその月に合った花を職員のアイデアで一緒に作成し、季節毎にしだれ桜等を制作して季節を感じられる工夫をしている。ホームの夏祭りでは一緒に神輿を作り、浴衣を着て盆踊りや神輿を担いで掛け声を出して盛り上がっている。多くのボランティアによる歌やフラダンス、職員のギターやピアノ、ひだまりボーイズの二人場織等楽しめる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が安心して会話が岩ができるように食席の工夫や、レクで一緒に楽しむ支援をおこなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にご本人の好きなものやなじみのある物を配置して居室にいる時間が快適になるように支援しています。パーズデー色紙を飾ったり思い出のものを飾ったりしています。	使い慣れた馴染のタンスや大切な仏壇を持ち込み、家族や孫の写真・運動会のメダル・大好きな俳優の写真等を飾り自分の居室作りとなっている。居室はベッドやローゼットが備え付けられているが、床に布団を敷き立ち上がり用の補助具を備えた部屋もある。居室担当と一緒に掃除や衣替えを行い、整頓されて導線が確保されている。マットセンサーを使用して転倒防止に配慮し、夜間の巡回ではトイレ誘導や安全の確認が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活ができるように、補助具を配置したり、福祉用具を活用したりして、安全に配慮し自立した生活ができるように支援しています。		

目標達成計画

作成日： 令和 4年 2月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共通認識がまだ薄く、職員でも温度に差がある。個々のやりたい事が実現できていない、またはやりたいことが特にならない職員もいるのではないか。	理念にある「利用者の気持ちに寄り添う」部分を個々が理想を持ち、自己実現できる組織を目指す。	毎月のスローガンの作成はミーティングで話し合いながらおこない、スローガンの中に気持ちに寄り添うケアを盛り込んでいく。職員と利用者のコミュニケーションがとりやすい環境整備(人員+時間)の確保をする。	6か月
2	11	職員間のスキルアップを目指す仕組み、今後必要な研修への取り組みなど、個々の能力をどのようにして向上させていくか。	職員のスキルアップに必要な研修は、個々の能力に合わせて必要な研修を取り組んでいき、やりがいとスキル向上を目指す。	個別に面談を実施して、必要な研修を確認する。また、研修中には理解度の評価を個々に行い、個々に合わせたアドバイスができるように観察をする。	12か月
3					
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。